



リポーター
水村里美さん(狭山在住)

市民の皆さんにリポーターになっていただき、市内の施設や市の事業をご紹介します。



訓練や消防車の点検などは、主に仕事が終わった後の夜間に行われます。大雪の日に消火栓の雪かきをしたり、その活動は季節や時間を問いません

**消防署と連携しながら
地域に密着した活動を展開**

火災が起きたとき、サイレンを鳴らして真っ先に現場へ駆けつける消防隊。その中には、消防署のほかに、災害に備えて地域に組織されている消防団の姿もあります。今回は、その消防団を統括している消防総務課でお話を伺いました。

消防団の歴史は消防署よりも古く、もともとは江戸時代の火消しから始まったといわれます。その後、消防組、警防団へと名称を変え、昭和23年に消防団となりました。そして、30年前には全国で200万人いた団員も、現在は93万人と減少し、全国的に消防団のさらなる充実を目指しているそうです。

そんな中、現在狭山市には入間川、入間、堀兼、奥高、柏原、水富の各地区に7つの分団が設置されています。市の消防署が常備消防であるのに対して、非常備消防とされる消防団は、313名の全団員がそれぞれの職業を持つ民間人の組織です。7個分団でポンプ車13台、可搬車8台の消防車を所有し、いざというときに備えています。

消防団の活動は、災害や大雨のときの出動、地域の行事や歳末などの警戒、分団で管理する消防車の点検、そして日々の訓練など多岐にわたります。親子3代で消防団に携わってきた狭山市消防団長の河井芳昭さんは、今は消防団に対して、昔のような理解や協力が得られにくい時代になっていきます。数年前に比べると、行政の協力もあつてイメージはかなり変わってきましたが、まだ一般的に認知度が低いようです。消防団は地域に密着し、地域から頼られるようにならなくてはいけません」と話してくれました。

市では、団員の意識を高めると同時に消防活動に必要な心・技・体の基本を養い、日ごろの訓練の成果を競うため、2年に1回「消防団ポンプ操法大会」を行っています。



団員としての使命感や苦勞を語る勤続27年の河井団長

昨年10月に6回目を迎えたこの大会は、各分団が練習に練習を重ねて臨むそうです。今回優勝したチームは、4か月の間に70回もの練習を重ね、全員の呼吸はびつたりと合い、その演技は「美しさ」を感じるほどだったとか。団員の皆さんが同じ目標に向かって一致団結することで、お互いの絆や信頼を深めるのだと感じました。ポンプ操法大会をはじめ、新年の出初め式や11月末の消防団特別点検などは、私たちも自由に見学ができるそうです。河井団長も、消防団を知ってもらうために、一人でも多くの人に「見てほしい」と話してくれました。誰かに強制されているわけではなく、自分の意思で活動に参加し、さらに災害時や緊急時には即対応が求められる消防団。これまでは「縁の下」の力持ちのような存在でしたが、今後は団員一人ひとりが信頼感を得られるよう自覚を持ちながら、その活動をより多くの市民にアピールし、地域の安心感につなげていきたいそうです。使命感を持って地域を守るために日々活動している皆さんのことを初めて知り、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

オピニオン

皆さんの「声」をお寄せください。

ごみは分別すれば大切な資源です

積極的にリサイクルを進めていきましょう

私が廃棄物減量等推進員になって6年めになります。11月から、私たちの地区でプラスチックの分別収集が始まりました。市の説明会に参加し、初めのうちは面倒にも感じましたが、慣れると



苦にならないものです。頻度も月1~2回でなく週1回の収集なので、分別方法も自然と身につきます。生ごみリサイクルにも参加しているため、燃やすごみの量はこれまでの約3分の1に減りました。近所の方ど「燃やすごみの日が減っても問題なさそうね」と話題になるくらい、分別後のプラスチックの量には驚きます。現在、プラスチックの分別収集は市内一部だけですが、早く全域に広がればいいと思います。ただ、プラスチックは集積所に無色透明袋で出すのが決まりで半透明袋やレジ

袋は使えないので、不便に思う人もいるようです。ルールを守っていくためには、きちんと説明を受け、納得して実践することが大切だと思います。

ごみの分別を増やすことは、地球にやさしい環境づくりにつながります。私が関わっている廃棄物減量等推進員制度などを大いに活用し、地域でもごみの分別に積極的に取り組むことで、市のリサイクル事業がさらに進展することを望みます。今すぐ目に見える成果がなくても、将来、必ず還元されて私たちに^{さちこ}かえってくるはずです。

高沢幸子さん(笹井在住 / 59歳)

市からの回答

ありがとうございます。市では、プラスチックの分別収集を平成17年度には市内全域で実施するために、廃棄物減量等推進員の協力を得ながら、地域を順次広げていく予定です。回収後のプラスチックは手作業で袋を破り、種類別にしながら異物を取り除くので、分別の徹底と作業員のケガ防止のため無色透明袋を使用いただいています。また、レジ袋では1週間分の量が収まらず複数の袋になるため、破袋作業に支障をきたしてしまいます。市で実施しているノーレジ袋デーの推進のためにもご理解・ご協力をお願いします。 担当：廃棄物対策課



AET corner

Steven Katien・人間中学校勤務

New Year is an interesting time of the year in Canada. While it is a holiday for the family in Japan, in Canada, it is a time for gathering with friends and reflecting on and celebrating the blessing of the past year. Many people have house parties inviting all their friends to gatherings of 30 50 or more people! At midnight, most people turn on the TV for the final countdown and sing "Auld Lang Syne" the closing song in many stores in Japan.

There is a tradition of making your "New Year's Resolution". It is a promise to yourself to do something significant to improve your life or the life of others. It is one of the most positive of western traditions, but unfortunately, the other New Year's tradition some people have is to quickly forget the resolution! This year, promise yourself you will study harder, be more kind to the people around you, help people in need or something else meaningful and have a safe, prosperous and peaceful year!

カナダでは、お正月が1年の中で楽しみな時期です。日本では家族のための休日ですが、カナダでは、友だちが集まって、過ぎ去った年を振り返ったり、感謝したりします。多くの方が30人~50人、それ以上の友だちを招いてパーティーを開きます。大晦日、たいいていの方がテレビを見てカウントダウンし、日本では多くの店で閉店の曲として流している「蛍の光」を歌います。

また、新年の誓いをする習わしもあります。それは、自分や他人の生活を向上するための何か意義のあることをするという誓いです。前向きに考えていこうとする西洋の習わしの一つです。しかし残念なことに、すぐに誓いを忘れてしまう人もいます。今年は一生懸命勉強し、身近な人にもっと親切にし、困っている人を助け、何か意味のあることをし、安全で豊かで平和な年にしましょう!

<スティーブン・ケイツン>(英文の要約)

●「歌う喜びと感動する心」が 声を響かせる合唱祭

3年生全員の合唱
校生活最後のハイモ
1は、満員となった会場
を感動させました



私たちの学校では、毎年10月に市民会館の大ホールで行われる合唱祭に向けて「合唱祭実行委員会」が組織されます。各クラスの実行委員を中心として練習を一生懸命に積み重ねるので、どのクラスも団結力や友情がさらに深まります。今年は、保護者と先生の合唱や秩父屋台囃子の演奏もあって、みんなの心に残る思い出の合唱祭になりました。

●一人ひとりが時間を意識して行動 校内は「ノーチャイム」です

私たちの学校は、授業の開始や終了などを知らせるチャイムが鳴りません。生徒一人ひとりが、学校にある時計を見て自主的に時間を守っています。

学校自慢

山王中学校